

- 1 日 時：平成 29 年 8 月 30 日（水）15：00～17：45
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第2会議室
- 3 出席者：委 員）梶田由美子，木村由美，柴田富之，高橋昇，八尋和郎（計5人）
事務局）齋田館長，中川事業管理部長，坂本運営課長，岩口図書サービス課長，
三浦文学・文書課長，八尋映像資料課長 他
傍聴人）3名

4 議事録

1. 開 会

館長挨拶／委員紹介／事務局紹介

2. 委員長の選出

委員の互選により，高橋委員を委員長に選出

3. 新ビジョン事業計画の点検評価

(1) 平成 28 年度新ビジョン事業計画の取組状況及び内部評価についてのヒアリング

	【事業別の評価調書について】
	< 2. 貸出・返却拠点等の新設 >
委 員	返却ポストは，増えているが，貸出拠点は増えていないので内部評価は B とはならないのではないか。
事 務 局	10 月 1 日にオープンする福岡市科学館（六本松）の 4 階にある情報ライブラリーで貸出・返却拠点としての準備を進めている。
委 員	地下鉄，JR，西鉄天神駅で貸したり返したりできる場所を検討していない。公民館を活用するとか，貸出拠点がなさすぎることに不満がある。
	< 3. 開館時間，休館日の見直し >
委 員	計画の中の検証の内容を問う。
事 務 局	成果については，統計資料のとおり。 成果や利用者ニーズを把握しながら継続的に検討を行っていく。
委 員	入館者数が前年比 0.2%増とは。
事 務 局	年によって開館日数が異なるので 1 日あたりで掲載している。
委 員	利用者アンケートの開館時間及び休館日についての不満が 14%もあり，しかるべく対応をしないといけない。
事 務 局	市政アンケートの中で市民のニーズ調査を現在行っている。その結果も踏まえて継続的に検討を行う。総合図書館は，勤務シフトの変更で時間延長を行った。東図書館が，大幅な開館時間の拡大になっているのは，指定管理者の導入による。ほかの分館では行えない。一定の経費の増額は必要である。
委 員	各分館に不満がある。入館者数の伸びは東図書館の伸びによるもの。
事 務 局	利用者数減少傾向の要因を分析し対策をとって見たらどうか。 利用者が利用したくなる図書館を目指し総合的に検討していく。

委員 事務局	<p>< 6. 館内レイアウトの変更 ></p> <p>館内レイアウトリニューアルは平成 31 年度実施でよろしいか。 平成 31 年度以降で計画を立てることとし、現在のスケジュールを変更する。 それまでは何もしないのか。 開館して 20 年経過し、施設設備において想定より早く不具合が出ている。限られた予算の中で利用者の安全面を優先するために改修を優先していきたい。 大がかりではなく、目先が変わるくらいの簡単な変化でいい。 利用者の利便性や魅力を高める、できる範囲の見直しは、各部門で行ってほしい。</p>
委員 事務局	<p>< 7. 資料収集の充実 ></p> <p>どんな見直しが行われたのか、どのような方針で資料を収集していくのか市民は知ることができるのか。 資料収集方針は、福岡市総合図書館資料収集方針がありホームページで公開している。更に各部門ごとにより、分館については特性、地域性を生かした内部方針になり年度ごとに作成している。</p>
委員 事務局	<p>電子書籍の検討についてどこがどう進んだのか。 現システムは、電子書籍に対応していない。 現在、平成 19 年に導入したシステムの更新準備を進めている。平成 30 年度に開発し、平成 31 年度にはまず、新システムを稼働させたい。</p>
委員	<p>平成 17 年から資料購入費が年々下がってきている。 入館者が減っているのは新刊がないからである。 文学だけでなく経済誌、ビジネス書を増やしビジネスマンを取り込めるよう考えてほしい。</p>
委員 事務局	<p>紙の書籍は、字が小さいと読めない、高齢化が進むと電子書籍は爆発的に伸びると思う。 今後どう対応していくのか教えてほしい。 公立図書館で権利上、導入可能な電子書籍は 1 万冊くらいである。学術書とか専門書に限られ、小説や週刊誌等は導入できない。費用対効果として紙書籍を充実させるか幅を広げるのか収集方針の中で検討していく。</p>
委員 委員 委員	<p>< 8. レファレンス（相談）サービスの充実 ></p> <p>レファレンスの受付件数が激減している。 レファレンスサービスは AI でやるべき。将来に向けて実証実験をやってほしい。 レファレンスサービスとは常に活字文献の何ページにあるかをもって回答とする。書籍の中身全部入ってないといけない。</p>
委員 事務局	<p>< 9. 情報提供の充実 ></p> <p>子育て支援には取組んでいないのか。市民のニーズがあって講座がはじまるのか、それとも図書館サイドで計画しているのか。 図書館としての取組であったり、市民からの要望や社会的な状況、現代的課題に取り組むのは図書館の方向性として進めており、文部科学省の「これからの図書館像」にも示されている。</p>

事務局	<p>< 9. 情報提供の充実 ></p> <p>平成 10 年くらいから利用者の抱える課題に取り組むため、レファレンスに特化したコーナーを設けているが、年月を得て現代的課題を医療、ビジネス支援、子育て支援など市の取組にも対応し行っている。</p> <p>貧困対策については、8月に子どもの未来応援基金の施設紹介パンフレット等を展示し取組を始めている。</p>
委員 事務局	<p><10. ホームページの複写サービス ></p> <p>どういうサービスか。</p> <p>レファレンスサービスの一環で自宅に接続環境やプリンターを持っていない人に行っている。</p>
委員 事務局	<p><12. 団体貸出先の拡大 ></p> <p>配本周期の見直しは、配本車の都合によるものか、貸出資料の分量によるものか。留守家庭子ども会への配本を充実させてあげたい。更なる効率化とは何か。</p> <p>団体貸出については、配本周期が3ヵ月、4ヵ月、6ヵ月とあり、冊数については千冊を限度に貸している。3ヶ月を4ヵ月に変更をお願いしたのは配本体制の問題である。留守家庭子ども会は、126団体が加盟している。</p> <p>貸出回数も冊数も増えている。現在の体制では4ヵ月でないといけない。</p>
委員 事務局	<p>図書館にとってはよいが、利用者にとって本の来る回数が年4回から3回になっている。サービス低下なのにAにしているのは分からない。</p> <p>相手方と話し合い、理解いただいた団体を4ヵ月にした。</p> <p>貸出先(団体)を増やすにはどうするかが大きなテーマ。まだ貸出しがされていないところを増やすためにはどうしたらいいか、新規の貸出しを増やすにはどうしたらいいか検討をしている。</p>
委員 事務局 委員	<p>冊数を増やすから回数を減らす。その辺は考慮されているのか。</p> <p>冊数は従来どおり。</p> <p>配本回数は減らしても、冊数を増やすよう考慮してほしい。</p>
委員 事務局	<p><13. 公民館等の読書活動への支援 ></p> <p>成果が不十分とは。これからの支援をどのように考えているのか。</p> <p>市内全公民館 147 館に支援を広げたい。団体登録した地域文庫への貸出しにとどまっている。生涯学習推進課と一緒に取組を進めていく。</p>
委員 事務局	<p>社会教育の場として図書館と公民館があるが図書の仕事に人手が足りないから乗り気ではない。</p> <p>長崎を参考にして、将来的に公民館で貸出・返却ができればポイントの解消になる。市民局とは、協議している。公民館の業務が多く、連携までできていない。今後の方向性として検討していきたい。</p> <p>団体登録を増やして貸出冊数を増やしていく。地域文庫は地元が頑張っているのに応援すべき。</p>
委員	<p>地域文庫がない公民館で、スタンダード文庫が設置されている。運営の支援についてはどのようにしてもらえるのか。</p>

事務局	<p><13. 公民館等の読書活動への支援></p> <p>団体登録してもらえば支援できる。</p> <p>人と人との連携ということであれば，団体登録していないところであっても総合図書館，分館に専門の職員がいるので相談していただければ支援できる。</p>
委員	<p><14. 議会図書室との連携></p> <p>議会図書室の活性化を何とかしなくてはならない。</p> <p>広報を行っていかないと利用者増にはつながらない。</p>
事務局	<p>議会図書室は，市議会議長が管理し，司書が配置されている。定期的に協議しているので支援を行っていきたい。</p>
委員	<p>行政実務者へのサービスをやっていくと福岡市総合図書館への認識も上がる。</p>
委員	<p><15. 市施設の図書室との相互協力></p> <p>ふくふくプラザとの連携の内容は現状のままか。</p>
事務局	<p>福祉図書室での受付のほかに返却ポストを置いている。</p>
委員	<p>あいくる，アジア美術館との連携も考えてほしい。</p>
委員	<p><16. モデル児童図書目録の配布></p> <p>完成したのか。</p>
事務局	<p>本形式から A4 サイズのペーパーにして窓口にも置いており，ホームページにも公開している。</p>
委員	<p>新しいリストは，基本的なものが入っていない。本の冊数も少ないので基本的な本を紹介してほしい。</p>
事務局	<p>従来の目録は，10 年から 15 年単位で出しており，100 冊収まっていた。毎年出すようにしているので今後検討する。従来冊子は，書名だけではあるがペーパーにして配布している。</p>
委員	<p><17. 新一年生への貸出カードの付与></p> <p>一部の小学校，中学校とはどういうことか。</p>
事務局	<p>小中学校生徒が 11 万人いるので試行的に名島小，百道中に文書を配布し試験的に行った。</p>
委員	<p>手ごたえがあったら全市に広げるのか。</p>
事務局	<p>平成 29 年度，平成 30 年度を試行期間とし平成 31 年度からの後期計画に織り込むか検討する。</p>
委員	<p><20. 学校図書館支援センターの設置></p> <p>中学校からの反応がなかったと聞いている。中学校が必要としている支援は調査したか。</p>
事務局	<p>学校指導課と協議をして始めた。貸出については，申出を受け登録，貸出しという事業にしていた。全校登録してほしいと働きかけている。</p>
委員	<p>中学校校長会で学生が本を読まないといっていた。</p>
委員	<p>朝読みの時間が無くなった。夏休みの宿題のために読むだけで部活も忙しく，本を読む時間がない。</p>

委員	<p><20. 学校図書館支援センターの設置></p> <p>人的支援が足りない。中学校の図書室も図書委員が鍵をあけないと開かない。学校司書が年間 12 日配置, 1 日 4 時間なので子どもと合わない。本を手渡す人がいない。総合図書館として学校支援センターとして支援できることは資料だけでなく他にもあるのではないか。</p>
事務局	<p>学校図書館支援センターの事業として, 人・もの・情報の 3 つの観点から支援を行っている。「学校図書館支援だより」という情報誌を出し, ホームページにも公開している。物的支援については, 調べ学習用の図書の貸出。</p> <p>人的支援については, 司書 2 人を各学校への訪問に派遣しており, 今年度, 全小中学校を廻り終える予定。</p> <p>計画的訪問と要請に基づく訪問を繰り返している。</p>
委員	<p>法律で学校司書が認められたが全学校にはいない状況。支援センター作っても受け手がない。</p>
委員	<p><22. 広報活動の強化></p> <p>平成 27 年度のアジア美術館との協力は良かった。広報されるとアジア映画の展示物の効果が生きる。</p>
事務局	<p>アジア美術館とは協議しているが, 展示とリンクするのは難しい。平成 28 年度はアジア美術館との連携を見送った。今年度は, アジア美術館の展示に協力して 12 月に東南アジア, シンガポール, マレーシアの上映を計画している。合わせてマレーシア映画のポスター展示を計画している。</p>
委員	<p><23. 歴史的公文書のデジタルデータ化及びシステム化</p> <p>24. 古文書資料・郷土資料のデジタルデータ化></p> <p>デジタルデータは, マイクロフィルムと比較して, 長期間保存できないため, 更新が必要になる。マイクロフィルムを 1 本作ってデジタル化し, 劣化したらまたマイクロフィルムからデジタル化するのが安全なやり方だが, 経費をかけられるのかという問題がある。</p>
事務局	<p>古文書資料は, 毎年 2 千点マイクロ化して閲覧に使っている。色がついているものや画像で見た方がわかりやすい資料のみデジタル撮影を行っている。公文書は整理して公開できるものをマイクロ化している。マイクロフィルムをデジタルに切り替えるのは, ご指摘のとおり予算的に厳しい。マイクロフィルムでの保存を継続しながら, 一部デジタルデータを作成してホームページで紹介するなど活用していく。</p>
委員	<p><25. 福岡市文学館の利用拡大></p> <p>福岡市文学館の認知度が低い。福岡ミュージアムウィークの参加はいつからか。</p>
事務局	<p>平成 28 年度から協議し, 今年から参加した。5 月 13 日から 5 月 21 日まで市内の美術館, 博物館など 17 施設が参加して, 期間中に利用料金を下げたり, イベントや共同でスタンプラリーなどを行い利用促進している。</p>
委員	<p>文学館は, 博物館的要素があるので価値がある。「福岡ミュージアムウィーク」は良いツールだと思う。もう少し早く参加しても良かったのではないか。</p>

委員 事務局	<p><29. 施設の有効活用などによる財源確保> スポンサー制度についてだが、取組みとして後ろ向き。まだ、早いという認識があるのか。</p> <p>雑誌スポンサー制度については、新刊雑誌のブックカバーに企業の広告を掲載する代わりに雑誌の代金を広告主に負担してもらう制度。</p> <p>民間事業者の事業活動を促進する効果があり、図書資料購入のための財源の確保というメリットを踏まえて調査をした。政令市をはじめ県内の市に調査したが、企業との交渉、スポンサーの獲得、契約の継続に課題があると聞いている。長期的な見通しにたった時に、計画かつ継続的な雑誌の購入は難しい。</p> <p>制度の導入については更なる検討が必要であり、これに限らず財源の確保に努めていく。</p> <p>海外では、寄付行為は当たり前。</p> <p>寄付者の名前を椅子の背中に入れて顕彰している。</p> <p>図書購入のため寄付をお願いしており平成28年度で50万ほどいただいた。</p>
委員 事務局	<p>【総括の評価調書について】</p> <p>「開館時間および休館日」について、利用者アンケートでは不満度が高い項目であり、内部評価の欄にその対応を書くべきではないか。</p> <p>「開館時間および休館日の見直し」は、目指す図書館像の実現に向けての必要な取組のひとつであるので今後も継続的に検討したい。</p>

(2) 平成28年度新ビジョン事業計画の外部評価の提出について

4. 閉会

事業管理部長挨拶／事務連絡